

会津美里町旧本郷第一小学校跡地利活用基本計画

会津美里町

令和5年4月

目次

1. これまでの経緯と利活用方針	1
2. 令和4年度の検討内容	2
3. 基本計画	
1) 基本的な考え方	8
2) 基本機能(基本的な使い方)	9
3) その他配慮すべき事項	11
4) 配置イメージ	13
5) 管理、運営	19
6) 今後のスケジュール	21
4. 今後の検討課題	22
資料編	

1. これまでの経緯と利活用方針

1) これまでの経緯

旧本郷第一小学校は、平成 25 年 3 月に閉校するまでの 139 年間、1.1 万人の卒業生を輩出し、地域の方々に親しまれてきた場所です。この跡地の利活用については、これまでも議論され、令和元年 7 月には、町民及び関係者で構成される「旧本郷第一小学校跡地利活用検討会」の検討の成果として、「旧本郷第一小学校跡地利活用方針」（以降、利活用方針）が町に提案されました。

平成 25 年 3 月	閉校(明治 6 年創立、139 年の歴史、1.1 万人の卒業生)
平成 29 年 12 月、翌年 4 月	旧本郷第一小学校の解体工事及び跡地の利活用に関する説明会
平成 30 年 9 月～翌年 5 月 11 月	旧本郷第一小学校跡地利活用検討会 全 6 回 校舎及び体育館解体
令和元年 7 月	旧本郷第一小学校跡地利活用方針 提案
令和 3 年 3 月	旧本郷第一小学校跡地利活用住民懇談会

2) 利活用方針

「利活用方針」の内容を以下に示します。

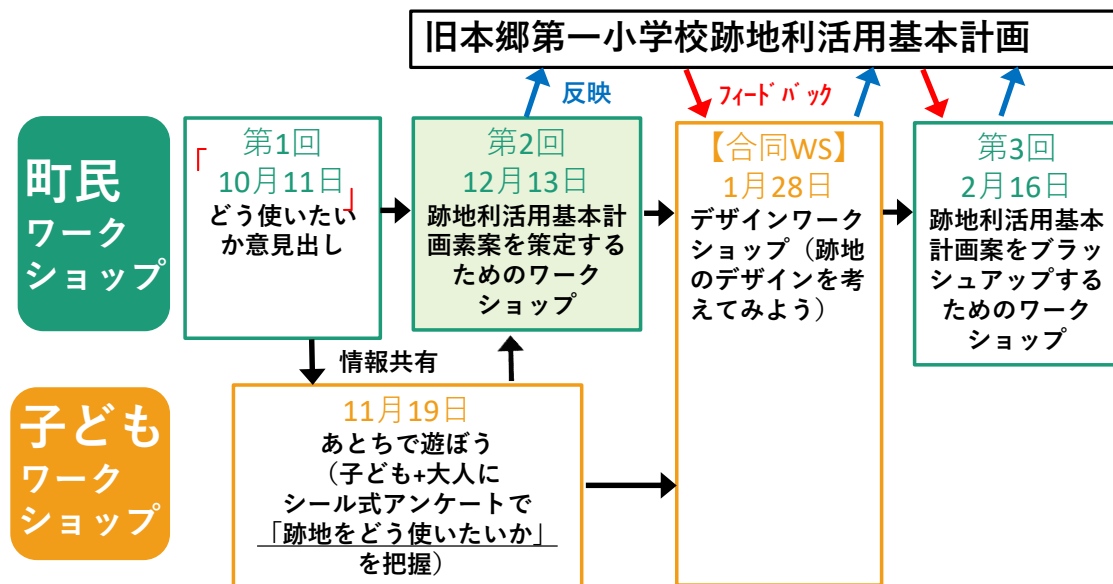
旧本郷第一小学校跡地利活用検討会の跡地利活用方針の位置づけとして、住民が本郷での暮らし・学びを充実させ、その魅力を発信し、地域活性化の拠点となることを目的として、以下の3つの理念を提案する。

- 本郷地区に賑わいを創出するための場所
- コミュニティを形成することができる場所
- 子どもが自由に遊べる場所

2. 令和4年度の検討内容

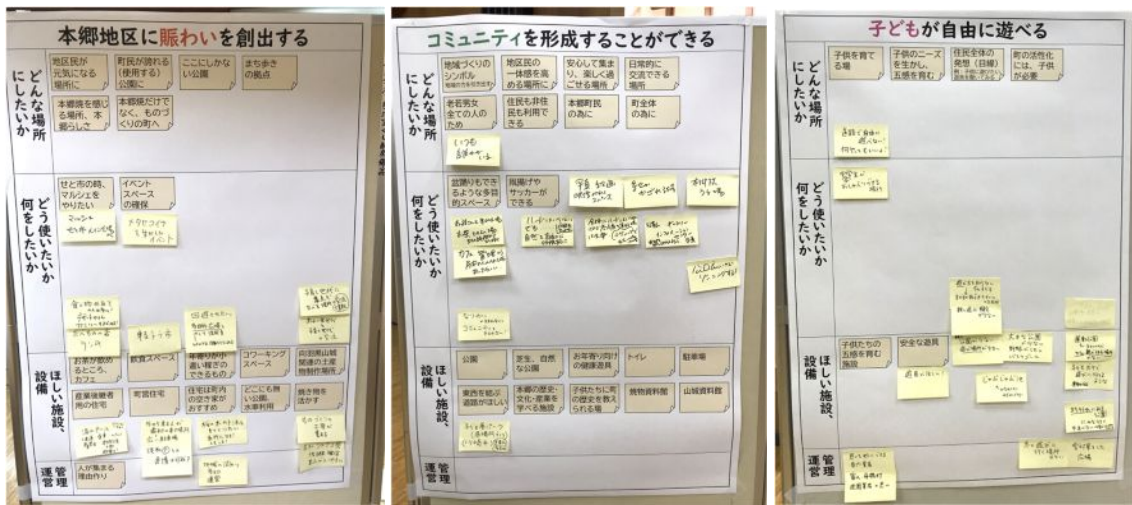
令和4年度は、この「利活用方針」を前提とした「旧本郷第一小学校跡地利活用基本計画」の策定に向けて、町民の意見を集約しながら、跡地の使い方や管理運営のあり方等について、基本的な方向性を整理しました。

町民の意見の集約方法として、公募した町民が参加する町民ワークショップを計5回開催しました。また、利活用方針のひとつに「子どもが自由に遊べる場所」が掲げられていることから、「子どもワークショップ」や大人と子どもが参加する「合同ワークショップ」を実施し、利活用について一緒に考える機会を設けました。



①第1回大人ワークショップ

日時	令和4年10月11日(火) 18:00~20:00
会場	本郷生涯学習センター 2階 大会議室
参加者	14名
目標	「跡地をどう使いたいか」について意見を出し合い、共通項を確認する。
概要	<ul style="list-style-type: none"> 3つの利活用方針の項目毎に、「どう使いたいか」「何をしたいか」についてそれぞれの想いやアイデアを出し合いました。最初のワークショップということで、まずは参加者同士を知るためにも、全員でのディスカッションとし、個々の意見に耳を傾けました。 ワークショップ終了後にアンケートを実施し、補足意見や参加した感想について収集しました。
結果	<ul style="list-style-type: none"> 全員でのワークショップにより、それぞれの考えや意見を知ることができました。また、今後のワークショップに向けて、事後のアンケートを含め多くの意見を集めることができました。



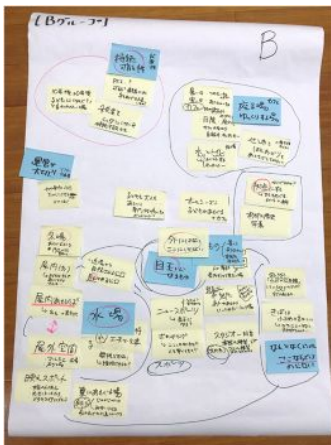
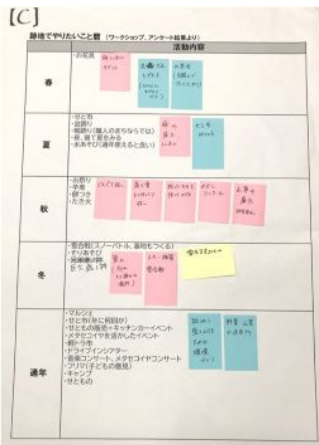
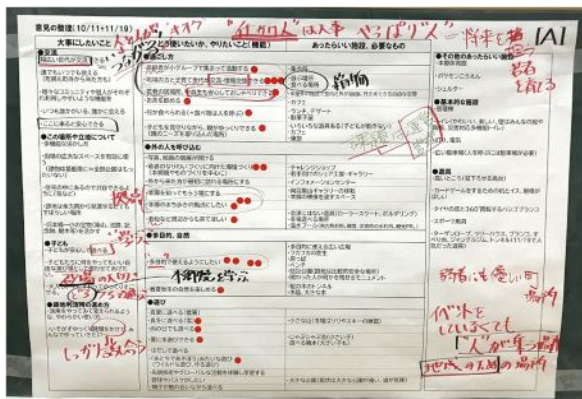
②子どもワークショップ「あとちであそぼう」

日時	令和4年11月19日(土) 11:00~14:00
会場	旧本郷第一小学校跡地
目標	跡地に親しみながら、子どもも大人も楽しめる遊びと交流のイベントを開催し、リラックスした雰囲気の中で、子どもやその保護者、地域の方々から、跡地の利活用について広く意見を収集する。
参加者	小学生を中心とした幼児から高校生までの子ども、地域の大人
概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 跡地で遊びながら利活用のイメージを膨らませ、「跡地にあったら良いなと思う遊具や設備」について「シール式アンケート」を実施しました。また、自由意見についてもヒアリングを実施しました。 ▶ 会場には様々な遊び道具を準備し、子どもたちは木工遊びや段ボール遊び、たき火を楽しみました。また、地域の方々にご協力いただき、けん玉や凧揚げなどの昔遊びをしたり、旧本郷第一小学校の昔話をしたりしました。 ▶ 後日、本郷小・中学校、本郷庁舎、本郷生涯学習センター及びオンラインで、ワークショップに参加できなかった方々からも意見を収集しました。
結果	▶ アンケートの結果、幅広いアイデアや子どもと大人の考え方の違いを確認することができました。また、その場に貼り出すことで、他の人の意見が見える化し、理解が深まりました。



③第2回大人ワークショップ

日時	令和4年12月13日(火) 18:00~20:00
会場	本郷生涯学習センター 2階 大会議室
参加者	14名
目標	「跡地をどう使いたいか、跡地でやりたいこと」について議論を深め、参加者の共通項を確認する。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ これまでのワークショップで出た意見を共有した上で、3つのグループに分かれ、「どう使いたいか」「何をやりたいか」について話し合いました。そのために必要な施設や四季の活動内容を挙げるとともに、大事にしていきたいことも各グループで共有しました。 ▶ 各グループの話し合いでは、それぞれ特色のある意見が出されました。グループでの意見は全体発表で共有し、質疑応答も活発に行われ、各内容への理解が深まりました。
結果	▶ 各グループの議論の結果から、跡地利活用で大事にしたいこと、やりたいことについて、基本的な方向性を確認することができました。



④合同ワークショップ「デザインを考えよう！」

日時	令和5年1月28日(土) 12:45~15:00
会場	本郷生涯学習センター 1階 研修室
参加者	小学生、高校生、子どもの保護者、地域の大人
目標	子どもと大人と一緒に参加し、跡地の配置イメージ案について、お互いに視線を合わせながら意見を共有する。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ これまでの話し合いの結果を踏まえ、事務局が作成した3つの配置イメージ案(簡単な模型)を見ながら、それぞれの案の良いところや改善すべきところについて、「旗さしワークショップ」の手法により子どもも大人も意見を出し合いました。 ▶ 前半は子ども(小学生、高校生)が主役で、大人は子どもたちの意見に耳を傾けました。まず各案のイメージストーリーを聴き、利用イメージを想像した上で、模型を見て旗さしを行い、旗をさした理由等について意見を出し合いました。最後に、どの案が一番良いと思うか投票を行いました。後半は大人が主役となり、前半と同じく各案に旗さしと意見出し、及び投票を行いました。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 高校生を含む子どもたちの声を直に聞くことができ、子どもと大人で考え方や関心の共通する点や違う点をお互いに確認することができました。 ▶ 空間的な利用イメージを想像しながら意見を出し合うことで、改善点や注意点など、今後の課題を確認することができました。



⑤第3回大人ワークショップ

日時	令和5年2月16日(木) 18:00~20:00
会場	本郷生涯学習センター 1階 研修室
参加者	11名
目標	基本計画案の内容について確認する。また、次年度に向けて、イベントの企画アイデアを出す。
概要	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 前半は、今年度実施してきたワークショップの結果を踏まえて作成した基本計画案の内容について、事務局から説明した後、質疑応答を行いました。 ▶ 後半は、次年度に向けて、住民主体によるイベント企画のアイデアを出し合うワークショップを実施しました。参加者はそれぞれの関心に合わせて「子どもが主役」「本郷の魅力発信」「賑わいづくり」の3つのグループに分かれ、やりたいイベントのアイデアを出し、実施時期や主体、協力者、必要なもの等企画内容について話し合いました。最後に各グループのアイデアを発表して全体で共有しました。
結果	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 計画案については、基本的な考え方や今後の課題について改めて確認することができました。また、来年度は実施計画を策定し、住民参加による話し合いを継続することを確認しました。 ▶ イベント企画ワークショップでは、住民が主体となったイベントの具体的なアイデアが各グループから多く出され、また、仲間を巻き込みながら、皆で作上げようという機運が高まりました。



3. 基本計画

町民ワークショップにおける意見や話し合いの結果を基に、基本計画として、跡地利活用の基本的な考え方や必要な機能（どう使いたいか）、空間イメージ等について整理します。

1) 基本的な考え方

旧本郷第一小学校跡地の利活用にあたっては、「利活用方針」を大前提に、次の事項を大事にし、検討・整備していきます。

●【人をつなぐ】 あらゆる人が集い、つながる場所にしよう

- ・年齢や性別、国籍や障がいの有無に関わらず、あらゆる人が町内外から集い、交流が生まれるような場所にします。
- ・誰もが安心して楽しく過ごせる場所にします。

●【未来へつなぐ】 地域に親しまれ、次世代に誇れる場所にしよう

- ・ハレの日、普段の日を問わず日常的によく利用され、地域の方々に愛される場所になるよう、地域の方々が管理運営に関わりながら、次世代に誇れる場所にします。
- ・地域全体で利活用しながら持続していけるよう、あらゆる人、自治組織、地域で活動する団体等に関わり、ともに創り上げることで、未来へつながる場所にします。

●【まちをつなぐ】 この場所らしさを活かし、まちの拠点にしよう

- ・この場所が受け継いできた歴史や環境を最大限活用し、本郷地域の魅力を発信する場所にします。
- ・地域への配慮や周辺施設と連携、役割分担等、地域と一体となった利活用とし、町への回遊を促す場所にします。

●急がずゆっくり時間をかけて、みんなでこの場所を育てよう

- ・あらゆる人が関わり、話し合いを大切にします。
- ・積極的にアイデアを出しながらチャレンジを重ね、利活用の方法を考えていきます。
- ・長期的な視点と柔軟性をもって検討します。
- ・跡地利活用に関する活動内容は、住民に分かりやすい情報発信を行っていきます。

2)基本機能(基本的な使い方)

ワークショップの結果から、「跡地をどう使いたいか」「ここで何をやりたいか」について、次の5つに分けて整理します。ここでは、ワークショップで出されたアイデアを含めて記載します。

①多目的に使える広い場所

日常的な活動だけでなく、イベントや災害時など、多様な活動を可能とする広さがあり、多目的で柔軟な対応ができる広場が必要とされています。

<ワークショップにおける意見、アイデア>

- ・跡地でやりたい四季折々の祭りやイベントの会場（お花見、せと市、盆踊り、秋季祭礼の山車の展示、そり遊び、マルシェ、音楽コンサート等）
- ・日常的に子どもが走り回ったり、寝転んだりできる芝生広場や原っぱ
- ・広場で遊ぶ子どもたちを見守ることができる東屋のような施設
- ・防災設備

②飲食ができて、交流したりゆっくりできる場所

飲食をしながら休める場所が必要とされています。そうしたリラックスした雰囲気の中で、日常的な交流が活発になることが求められています。

<ワークショップにおける意見、アイデア>

- ・子どもを見守りながら親がゆっくりでき、地域の方と交流・情報交換できる場所
- ・高齢者が小グループで集まり活動できる場所
- ・中高生も安心しておしゃべりできる場所
- ・カフェや売店等の飲食ができる場
- ・(カフェが難しい場合) 日陰で座れる場所や見晴らしの良い場所を作り、自販機やキッチンカーを配置

③屋根があり真夏や冬に体を動かせる場所

四季を通じて、子どもがのびのびと遊び、大人も体を動かせる場所が必要とされています。

<ワークショップにおける意見、アイデア>

- ・雪、猛暑、雨天等気候に左右されることなく子どもが遊べる
- ・屋内遊び場や、大きな屋根のある半屋外空間等、屋根のある施設が必要

- ・楽器練習できるスタジオや会津にはないスポーツの施設
- ・先端技術やグローバルな活動の体験学習など、幅広い遊びと学びの場所

④おもいっきり外遊びができる場所

ボール遊び、水遊びの施設、泥遊びや小さな山など、子どもが屋外で体を動かし、自然に触れながら遊べる場所が必要とされています。

<ワークショップにおける意見、アイデア>

- ・小さい子向けのじゃぶじゃぶ池や少し大きい子も遊べる噴水
- ・ソリやスキーもできる小山等自然を活かした遊び場
- ・砂場や本郷らしさを活かした泥あそび
- ・自然に触れながら、自ら作って遊ぶ冒険遊び
- ・全身を使って遊べる遊具（大型のトランポリン等）
- ・親子でふれ合いながら遊べる場所
- ・子どもが飽きないように様々な遊具の設置が必要
- ・野球やバスケットができる場所（特に、小学校高学年～中学生）
- ・高齢者も使用できる健康遊具の設置

【アンケートで子どもに人気のあった遊具等】

水遊び場、ターザンロープ、ツリーハウス、ブランコ、すべり台、ジャングルジム、トンネル、チョークで落書き

⑤本郷地域の魅力を発信する場所

会津本郷焼など地域の魅力を発信し、周辺の施設への回遊拠点となる場所が必要とされています。

<ワークショップにおける意見、アイデア>

- ・本郷のものづくりを継承するチャレンジショップ
- ・若手向けのシェア工房・ギャラリー
- ・窯の熱を利用した温水プール
- ・インフォメーション機能
- ・向羽黒山ギャラリー
- ・貸しギャラリー

3)その他配慮すべき事項

①緑、景観

四季を感じたり、子どもたちの遊び場として、樹木や花等が必要とされています。また、この場所らしい景観を形成しているメタセコイヤや、跡地から見える山並みなどは、出来る限り継承していくものとします。

<ワークショップにおける意見、アイデア>

- ・春夏秋冬の自然を楽しむ（桜の木のトンネル、木陰、大きな木）
- ・遊べる自然（どんぐりや落ち葉）
- ・ビオトープ（一年中、野鳥や魚の観察ができる）
- ・本郷を感じられる樹木や花（本郷の花＝ツツジ）
- ・メタセコイヤをシンボルツリーとして活かす

②防災関連機能

町の避難場所に指定しており、災害時の拠点・避難所としての機能を充実させていく必要があります。

<ワークショップにおける意見、アイデア>

- ・緊急時に車両が進入する際の入口や、通過する際のルート確保
- ・災害対応多機能トイレ、水道、倉庫

③基本的な施設・機能

トイレやベンチ、街灯、水道等の基本的な設備に加え、多目的な活動に必要となる設備や施設について検討する必要があります。

<ワークショップにおける意見、アイデア>

- ・管理棟
- ・トイレ（例えば、子どもたちの絵や陶板が配される等、皆に親しまれるデザイン）
- ・街灯、電気、水道（イベントやキッチンカーに対応）
- ・座る場所
- ・広い駐車場（必要に応じて）

④周辺環境とまちづくりとの連携

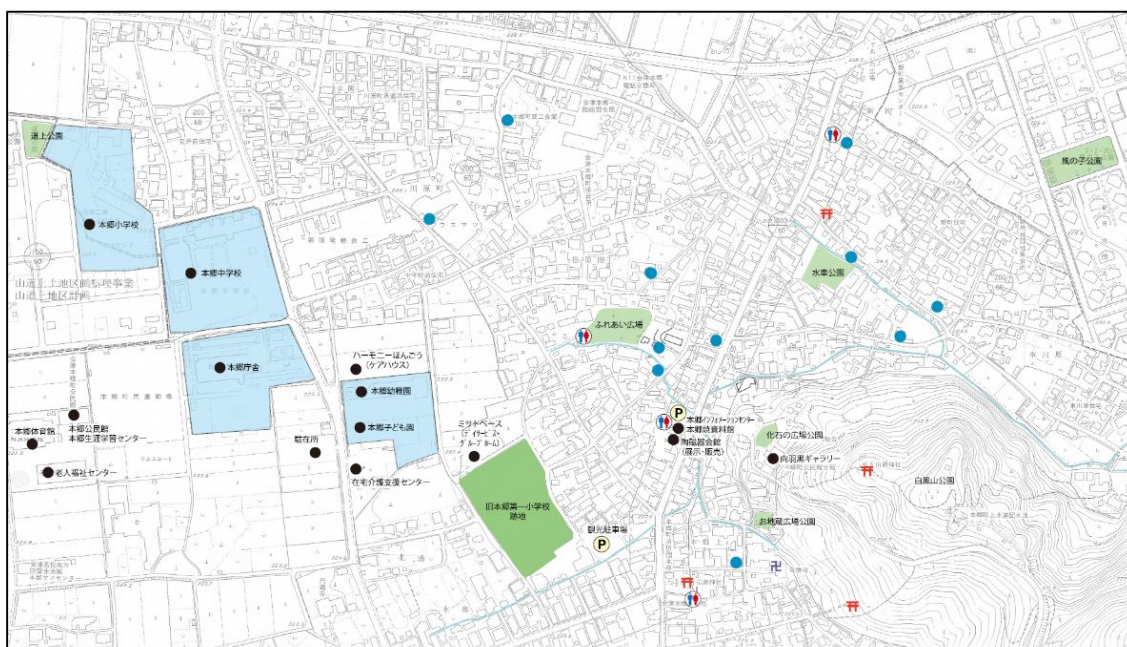
- ・跡地が町民によく利用されるよう、地域に必要な機能を周辺施設と役割分担する必要があります。
- ・地域やまち歩きの拠点とするため、当該敷地へのアクセス動線や本郷地域への回遊動線を考慮し、快適性や安全性を確保する必要があります。

<ワークショップにおける意見、アイデア>

- ・住宅地にあるので共存できるように配慮する（音など）
- ・ミサトベースとの連携
- ・子どもやお年寄りが安心して歩ける外周、周辺道路の整備
- ・跡地は全方向から見渡せるとてもすばらしい場所
- ・すでにある施設は跡地には不要

<周辺環境の状況>

- ・本郷庁舎に公民館、福祉センター機能が移転（令和5年）
- ・観光駐車場、インフォメーションセンター、点在する窯元等観光拠点に隣接する。
- ・行政や学校等の施設が集積するエリアと、観光の中心である瀬戸町中心部をつなぐ位置にある。
- ・福祉施設（ミサトベース）が敷地に接している。



跡地周辺の施設等の配置状況

4)配置イメージ

ワークショップにおける意見を踏まえ、3つの配置イメージを作成しました。

これらの案は、現段階において、機能や施設を仮置きしながら、より具体的に跡地の使い方を話し合うために作成した特徴的な3案であり、決定された案ではありません。

これらの案に対して出された意見を基に、次年度以降、機能の絞込みを行いながら、具体的な配置案を検討していきます。

①配置イメージ(デザイン)の考え方

以下に示した3つの視点で、遊び方や緑・自然、建物のボリューム、多目的広場の大きさ等を変化させて、3つの案を作成しました。この3つの案について、デザインワークショップを行い、それぞれの案の良いところ、改善すべきところについて、意見を出し合いました。

■3つの視点と3案のデザインの概要

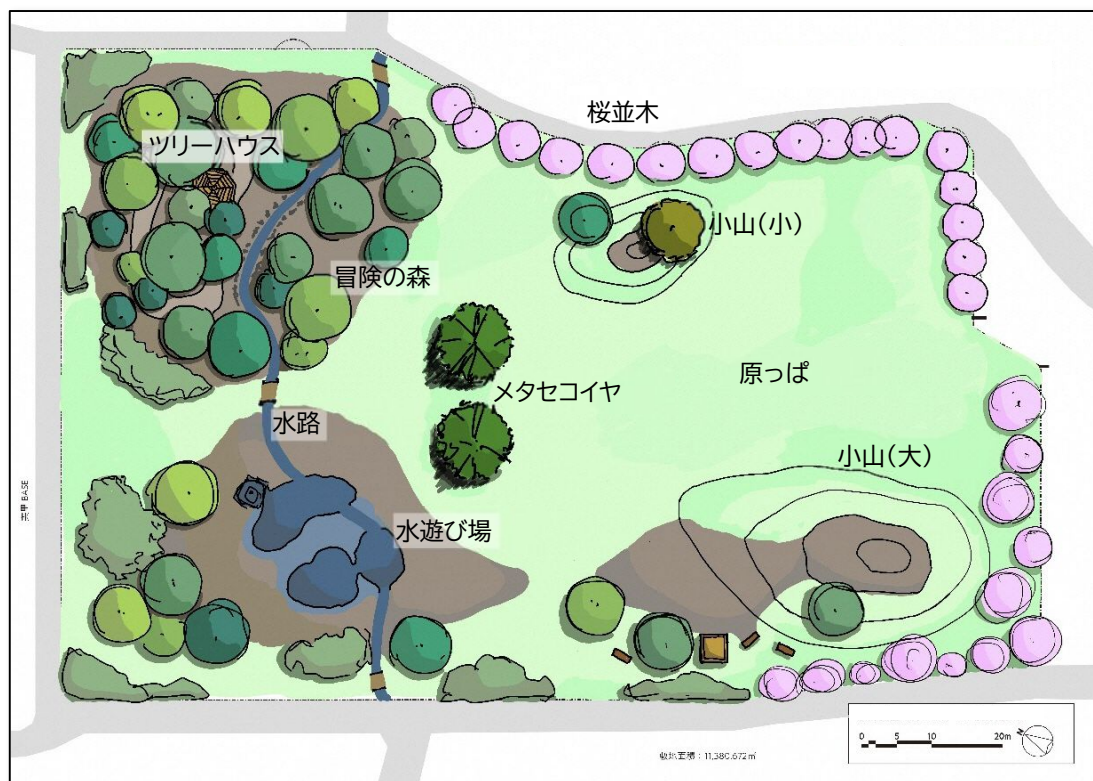
- ・「子どもの遊び」の視点では、A案からC案になるにつれ、屋外(自然)から屋内へ、冒険遊び場から都会的な遊び場に変化します。樹木の本数や高低差も変化します。
- ・「コミュニティ形成」の視点では、A案からB案になるにつれ、小さいながらも建物内にカフェ機能が生まれ、コミュニティガーデンが出来、C案では集会機能がもう少し拡大します。
- ・「にぎわい創出」の視点では、A案からB案になるにつれ、原っぱから芝生広場となって広場空間が広くなり、様々なイベントが開催されます。C案ではさらに、冬季でもイベント開催が可能な室内の多目的室が登場します。

	A案:森・多自然的な案 →緑豊かで、自然を活かした遊びが楽しめる	B案:コミュニティを育む 広場案→広々とした芝生の広場での各種イベントや地域活動	C案:都市型イメージ案 →屋内施設により、季節を問わず遊びやイベントが可能
建物	なし(小屋あり)	小さな建物が分散して建っている(カフェ、交流スペース、キッチン、東屋等)	屋内遊び場、大屋根イベント可能な多目的室、集会室 駐車場
緑、自然	木多い(多様な樹種) 大小の小山 水路	四季を楽しめる樹木 地元有志で育てる花壇 コミュニティガーデン	都会的な樹木、並木
広場	原っぱ 園路なし	芝生多め ウッドデッキ	芝生+舗装 ステージ キッチンカー
遊び	プレーパーク 自然遊び、ツリーハウス 水遊び、泥んこ遊び	遊具 砂場	ボール遊び場 ストリートスポーツ ボルダリング
共通	メタセコイヤを残す、水遊びの場、ベンチ、木陰、トイレ、倉庫		

②配置イメージ案と意見の概要

A案:森・多自然的な案「土と緑の冒険のもり」

基本的に建物はなく、緑豊かで、起伏があり、自然を活かした冒険遊びが楽しめます。外周には桜並木があります。



●ワークショップでの意見の概要

- ・子ども（高校生含む）も大人も「小山」「水遊び場」「冒険の森・ツリーハウス」への関心が高く、「桜並木」には大人の関心が多く集まりました。
- ・自然を活かしのびのびと遊べる環境に肯定的な意見が集まりましたが、日除けやベンチ等の休める場所や遊具、泥を洗い流す水道等の基本的な設備の必要性や、遊び道具の管理が必要との意見がありました。

<主な意見>

- ・ツリーハウスは、大人と子どもが参加してつくと良いのではないかと。(子ども)
- ・自然遊びや原っぱだけでなく、ブランコなどの遊具もあると良い。(子ども)
- ・桜は1年中楽しめる。旧小学校からあるものなので、活かしていきたい。(大人)
- ・桜で見通しが悪くなるので、子どもが飛び出さないよう対応が必要。(大人)
- ・原っぱには子ども見守る親向けに、日除けやベンチがあると良い。(大人)
- ・泥遊びをするなら、洗い流すための水道が必要。(大人)
- ・小山をすべり台のように使うには、道具類の用意や管理する人が必要。(大人)

B案:コミュニティを育む広場案「わいわいつながる まちのリビング」

広々とした芝生の広場では各種イベントや地域活動が行われます。小さな建物が分散して建ち、みんながくつろぐ交流スペースや1日カフェなどがあります。



●ワークショップでの意見の概要

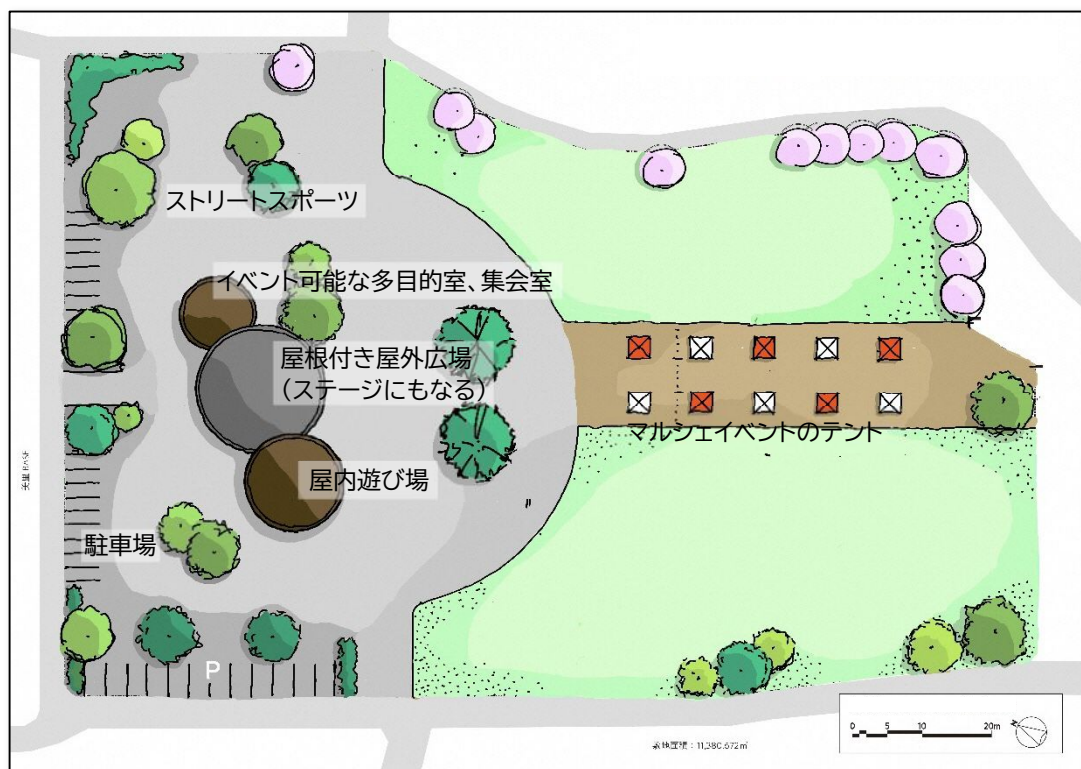
- ・店長体験ができる「1日カフェ」は、特に子どもの関心が多く集まりました。大人は「交流スペース」「ハーブガーデン」「作陶場」「ウッドデッキ」に関心が多く集まり、交流したりくつろいだりすることができる場所との意見がありました。
- ・小さな建物は魅力的な一方で、カフェ等は集客を考えた計画が必要との意見がありました。

<主な意見>

- ・赤ちゃん連れの親子で遊んだり、休んだりできる場所があつてよい。(子ども)
- ・夜のイベントを実施する際は、水路が危険。(子ども)
- ・ハーブガーデンにハーブ以外の作物を育てれば、子ども楽しめて良い。(子ども)
- ・ハーブガーデンは誰かが水やりするならば良いアイデアだ。(子ども)
- ・卒業生はメタセコイヤに思いがある。ウッドデッキでコンサートができる。(大人)
- ・道路に面した舗装されているスペースでせと市等をやったら良い。(大人)
- ・盆踊りを開催できる十分な広さの空間が必要。(大人)
- ・小さなカフェは可愛らしいが、集客を考えるとある程度の広さが必要。(大人)

C案:都市型イメージ案「いつでも楽しい 四季の広場」

比較的大きな施設として、屋内遊び場や多目的室、屋根付き屋外広場があり、季節を問わず遊びやイベントが可能です。マルシェ等のイベントスペースもあります。



●ワークショップでの意見の概要

- ・子どもも大人も「屋内遊び場」「屋根付き屋外広場」への関心はかなり高く、全天候型の遊び場や活動スペースが求められています。「ストリートスポーツ」や「イベントスペース」への関心も多く集まりました。
- ・人工的施設だけでなく、砂場等の遊び場や広い空間の確保が必要とされました。大きな施設や駐車場は周囲の環境や動線に配慮した配置が必要との意見がありました。

<主な意見>

- ・雪が降るとあまり外で遊べないので、屋内で遊べると良い。(子ども)
- ・大屋根は天候に左右されずにマルシェができるので良い。(大人)
- ・建物の配置や入口はミサトベースに配慮した方が良い。(大人)
- ・駐車場の位置から動線を考えると建物は南側にあった方が良い。(大人)
- ・駐車場が北側にあると外周道路の交通量が増えて危ない。(大人)
- ・砂場や泥遊びできる場所もほしい。人工的な処理は最低限に。(大人)
- ・スペースを分断せず、B案のように集まれる広い場所があった方が良い。(大人)

③配置イメージに対する意見と課題

デザインワークショップの結果、跡地に求める機能に対するニーズや課題を確認することができました。これらを踏まえ、次年度以降、具体的な配置イメージを検討していきます。

<3つの案への意見から見たニーズ>

▶ 利用者の利便性への配慮

A案のような自然な遊び場はどれも関心が高く肯定的ですが、必要最低限の施設や設備など、利用者の視点に立った利便性が求められています。

▶ 屋内・半屋内施設のニーズの高さ

C案の屋内遊び場や屋根付きの広場に対する強いニーズが子どもや子育て世代に見られました。一方でC案のように人工物が多い場合も、砂場等の遊び場を取り入れていくことが求められています。

▶ 活動・交流とくつろげる場所(大人)

B案にある小さなキッチン付きの集会施設やコミュニティガーデン、作陶場など、地域の人が活動・交流できる場所、くつろげる場所に大人の関心が多く集まっています。

▶ 創造と体験の機会(子ども)

子どもは自ら創造し体験できる場所に関心が多く集まっています(冒険の森、一日カフェ等)。

▶ 多目的な広いスペースの確保

多目的な広いスペースやマルシェの開催、キッチンカーが出店できる設備のあるスペースが求められています。

<配置イメージの検討に向けた課題>

▶ 機能の絞込み

基本的な機能やこれらのニーズを踏まえ、今後、具体的な機能の絞込みが必要となります。

▶ ゾーニング(区分け)の検討

機能の絞込みとともに、周辺環境にも配慮した区分けを検討していく必要があります。

- **周辺の公有財産の利活用検討**
跡地周辺の町有地についても、一体的に利活用していくための検討が必要となります。
- **建物の配置**
駐車場からの動線や周辺道路の安全性を考慮する必要があります。
- **施設の内容や規模**
運営方法や将来的な負担も考慮しながら、多角的に検討をする必要があります。
- **メタセコイヤ等の安全性の確認**
メタセコイヤや桜は、旧本郷一小卒業生を中心に継承を希望する声が多い一方で安全性を懸念する声もあり、樹木医の診断も交えた適切な維持管理が求められています。

5)管理、運営

①主な管理運営形態

主な管理運営の形態について、事例に合わせ整理します。

●広場や公園等の整備管理運営形態の主な例 ◆事例 *町内の事例

整備	管理	運営	方式	内容、事例
行政	行政	行政	直営	・行政が直轄で管理運営 * 蓋沼森林公園
行政	民間	民間	民間委託	・管理権限は行政。 ◆練馬区立こどもの森（東京都練馬区） →民間企業3社による共同事業体（JV）が管理運営を受託。（遊びの専門集団NPOと、造園やビル管理の企業）
			指定管理者制度	・管理権限を民間に委任。自主事業や料金授受など、条例の制定により柔軟な活動が可能。 *せせらぎ緑地公園（振興公社）
行政	民間 行政	住民	住民の運営参加	・基本的な管理や運営は民間や行政が担うが、運営に住民が関わる仕組みがある。 ◆わいわいコンテナ2（佐賀市） →まちづくりに関わる市民を中心に構成される「佐賀市街なか再生会議」が事業方針を決定。管理運営は地元のまちづくり会社（NPO）が市より受託
行政	住民	住民	住民組織による管理運営	◆朝霞の森（埼玉県朝霞市） →市民と利用団体の代表者による「運営委員会」が方針等を話し合い、さらに多くの市民が参加する「運営会議」に諮る。前身の準備組織で行政のサポート受けながら運営を経験。 ◆雑司ヶ谷公園（東京都豊島区） →町会・商店会の代表者、大学等からなる「運営協議会」が方針決定。地元発NPOが区の委託を受け、事務局を担いながら自主事業を含めた公園施設を活用したプログラムを企画実施。
民間	民間	民間	Park-PFI	・民間事業者が、カフェ等公園利用者の利便の向上に資する施設を設置し、その収益を活用して、園路や広場等の整備・回収を一体的に行う。 ◆木伏緑地（盛岡市） →川沿いの緑地のトイレ整備に加え、芝生のはらっぱ、ウッドデッキ、10のテナントを一体的に整備、管理運営。

※広場と建物で、整備管理運営形態が異なる場合もある。

②管理運営に関する WS での意見

これまでのワークショップにおいて出された、管理運営に関する意見を以下に示します。

●住民の関わり方

- ・行政に頼らない住民主体の管理運営体制が大事
- ・継続的に各コミュニティや住民が関わり参加していく仕組みが必要（管理、清掃、定期的な集まり、イベントの企画・運営等）
- ・子どもを含めた住民が関わり、作り上げていくことが重要
- ・特定の個人や団体に負担がかからないよう、様々な人が関わり企画・運営できる仕組みが必要
- ・リーダーシップのある仕掛け人が必要
- ・NPOによる管理運営

●子どもの遊び場に関して

- ・見守り体制が整っている
- ・利用のルールが必要

●施設整備と運営について

- ・カフェ等の施設は民間による運営
- ・箱物は民間で建築するべき。それで事業成立できないのであれば整備しない。
- ・カフェは単体で魅力がないと集客できない。
- ・イベントがない日でも賑やかになる仕組み
- ・PFIなど民間事業者を呼ぶことが可能か。事業者を確認してほしい（サウンディング調査※）。

③管理運営の方向性について

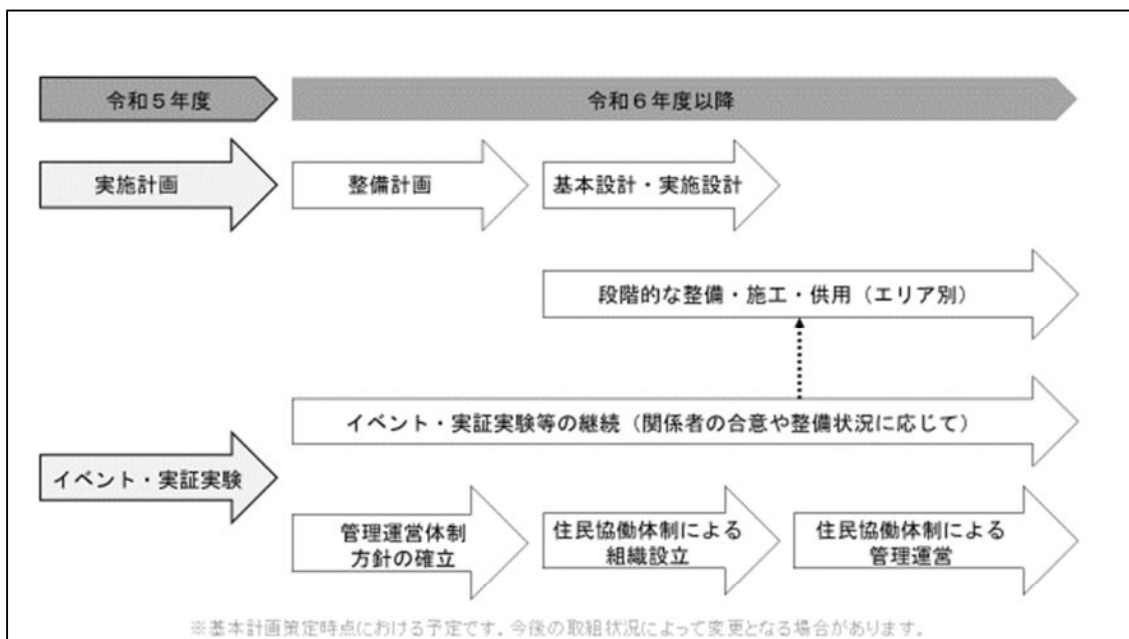
- ✓ 地域に親しまれ、利用される場所とするために、町民が管理運営に関われる仕組み作りを検討します。
- ✓ 整備までの検討、準備期間においても、多くの町民が関わるための工夫と機運を醸成します。
- ✓ 民間の力を活用するなど、管理運営コストも考慮した持続可能な体制を検討します。

※サウンディング調査とは、事業の発案・事業化段階において、事業内容や事業スキーム等に関して、民間事業者と直接対話することにより、民間事業者の意見や新たな提案を把握する等の情報収集を行うこと。

6)今後のスケジュール

令和5年度は、基本計画を踏まえ、整備に向けた具体的な実施計画を策定します。実施計画の策定にあたっては、今年度に引き続き、町民ワークショップを開催し、機能の絞込みや配置等について具体的に検討します。また、跡地を活用したイベントや実証実験を実施します。

令和6年度以降、整備計画、設計となりますが、整備までの間においても町民ワークショップの開催や、跡地での実証実験などを実施し、跡地を使いながら、整備に向けた取組を着実に推進します。



4. 今後の検討課題

➤ 町民による運営への関わり、体制づくり

地域に親しまれ、よく利用される場所とするため、行政と連携しながら町民が管理運営に関わる仕組みを検討し、体制を構築していく必要があります。

そのためには、整備までの検討、準備期間においても、多くの町民が関わるための工夫をしていきます。

➤ 必要な機能の絞込みと周辺施設との役割分担

今年度のワークショップから、利活用の基本的な方向性や町民のニーズを確認することができました。これを基に、周辺施設との役割分担も考慮し、跡地に本当に必要な機能について、ワークショップ等での話し合いや実証実験を実施しながら、絞り込んでいきます。

➤ 財源の確保

必要な機能を絞込みながら、財源の確保についても並行して検討する必要があります。また、民間資金等を活用した整備・管理運営を調査・検討していきます。

➤ 法的課題等の整理

来年度の実施計画では、広場や公園の整備や管理運営に関わる法的課題等について整理し、具体的なあり方を検討していきます。